

令和8年度 学校経営環境分析書

蒲刈中学校区 校番 22 学校名 蒲刈中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域及び保護者は協力的で、行事等の参加率も高く、教育活動に対する理解と支援が得られている。 ○地域の方がゲストティーチャーとなり、協力していただきやすい。 ○地域の方は学校を大切に思っており、子どもの成長を楽しみにしながら支援している。 ○自然や文化、伝統、教育施設などに恵まれており、授業等で活用できる資源が多い。 ○小学校と中学校がグラウンドを挟んで隣接しており、合同行事などに取り組みやすい。 	<p>S (強み)</p> <p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒とかかわる時間が多く、個に応じた指導・支援などが行いやすい。 ○教員数が多くないために、教員の一人の姿勢が教育活動に及ぼす影響が大きい。また組織内の連携及び情報共有がしやすい。小規模の組織のために新しい取組を企画・実行しやすい。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の役割が多いため、人前での発表や貴重な体験をする機会に恵まれている。 ○協力し助け合って活動することができ、落ち着いた生活ができる環境である。 ○常に異学年・異校種の交流があり、他学年に接する際には気遣う姿勢がよく見られる。 	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の資源を活用した取組を充実させる。 ○少人数の強みを生かし、個に応じた指導及び個別指導を充実させる。 ○自己表現できる発表の場を数多く設定する。 ○A Iドリル等のICTを授業や帯タイム等での学習に活用し「個別最適な学び」及び家庭学習を充実させる。 ○校内での異学年交流及び小学校との異校種交流を充実させ、自己肯定感を高める活動を推進する。 ○異学年・異校種の交流の中で、生徒による主体的な取組を促進する。
	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化及び児童・生徒数の減少は深刻である。 ○少人数であるが故に問題が発生すると、生徒間だけでなく保護者間の人間関係の修復に困難な場面が見られる。 ○生徒間の刺激が少なく、学習や部活動において互いに切磋琢磨することが少ない。 ○交通手段が限られ、交通費などの経費も高いため、校外での活動が制限されることが多い。 ○大多数の生徒の通学手段がバス通学で、放課後の活動に制限を受ける。 	<p>W (弱み)</p> <p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小規模の組織のため、教員一人当たりの業務の種類が多く、業務の偏りが生じやすい。 ○生徒を丁寧に指導・支援できる反面、生徒の主体性の育成を阻害し、生徒が受け身になる傾向がある。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間関係が固定化され、問題が生じると人間関係の修復が困難である。 ○切磋琢磨することや緊張感は少なく、学力には課題がある。 ○今までの人間関係に依存し、自分の気持ちを言葉でうまく表現しにくい傾向があり、コミュニケーション能力の育成が必要である。 	<p>阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に考えて、行動する場を意図的に設定する。 ○生徒会が中心となって生徒が主体となって活動する機会を増やす。 ○自分の思いや考えを表現できる集団づくりを目指し、学級や部活動において自己開示・自己表現できる取組を継続する。 ○養護教諭やSCと連携し、生徒理解に努め、自己肯定感を高める取組を充実させる。

2 重点課題

- 昨年来の課題をもとに、取組の工夫・改善を確実に行っていく。生徒の主体性の育成を念頭に取組内容の充実を図り、合わせて、課題である「自己肯定感の育成」、「自己表現力の育成」を目指す。
- 子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進するとともに、ICT機器を活用し「個別最適な学び」及び「協働的な学び」とを往還させ、学力の向上を図る。
- 「授業のユニバーサルデザイン化」など特別支援教育の視点、「個に応じた支援と居場所づくり」など生徒指導の視点を重視し、「個を大切に支援の充実」を目指す。